

4年制リハビリ学部と大学院 岐阜保健大が開設へ



リハビリテーション学部と大学院の開設を
発表する関係者＝岐阜市東鶉、岐阜保健大

岐阜保健大(岐阜市東鶉)は、リハビリテーション学部(4年)と大学院看護学研究科修士課程(2年)を設置する。今年3月に文部科学省に設置許可申請を提出しており、来年4月の開設を目指す。4年間と通算6年間の教育課程を整備し、学生がより長期間継続して高度な経験と技術を実践的に身に付けられる環境を整える。

認められれば、4年制リハビリテーション学部の設置は県内初、大学院の看護学研究科設置は県内で県立看護大に次いで2校目になるといふ。定員は同学部が理学療法学科60人、作業療法学科30人の計90人、大学

院は看護学研究、保健師、助産師の3コースで計13人を予定している。

来年4月、学校施設の増設はしないが、リハビリ機器を充実させた実習用のラボ二つが完成し、高齢者認知症予防センターや多職種連携実践センターなど既存の四つの研究センターに加えて、地域連携支援センターも新たに開設する予定。現在の短大部リハビリテーション学科(3年)は学生募集を停止する。

1日に同大で会見した石井英子副学長は「大学院は災害看護や認知症看護といった日本初の専門領域を経験豊富な教員の指導のもと、多様な実習機関で学べ

る。学部とともに、多様化する社会のニーズに応えられる、高度な実践力を持つさまざまな医療従事者を輩出したい」と述べた。

(武藤直子)